

整備効果① 都心経由から圏央道経由への転換

・都心経由の広域交通が規格の高い圏央道に転換しています。

東名高速と関越道を乗り継ぐ広域的な移動の例

圏央道の開通前は、

○首都高速や環状8号線など、都心経由が約9割

圏央道がつながったことにより

○圏央道が利用され、都心経由が約3割に大幅に減少。

関越道 新潟方面

東名高速－関越道間の
乗り継ぎ経路

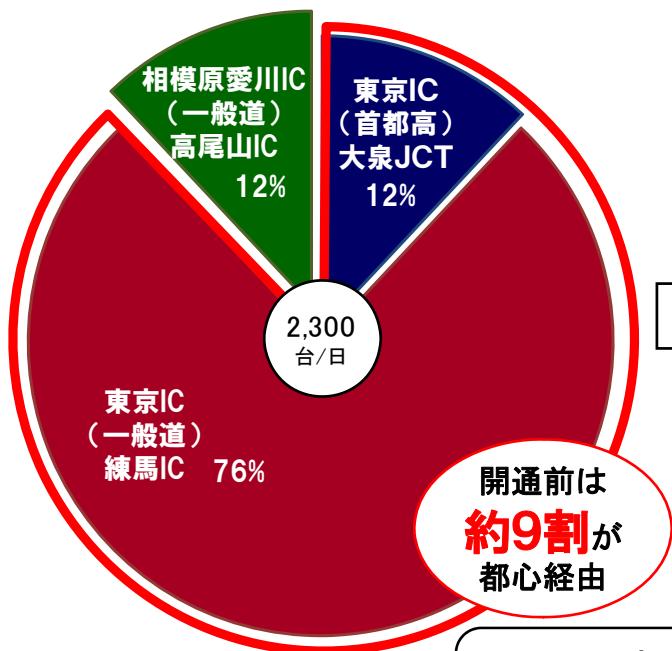
◇開通前の環状8号線の交通状況



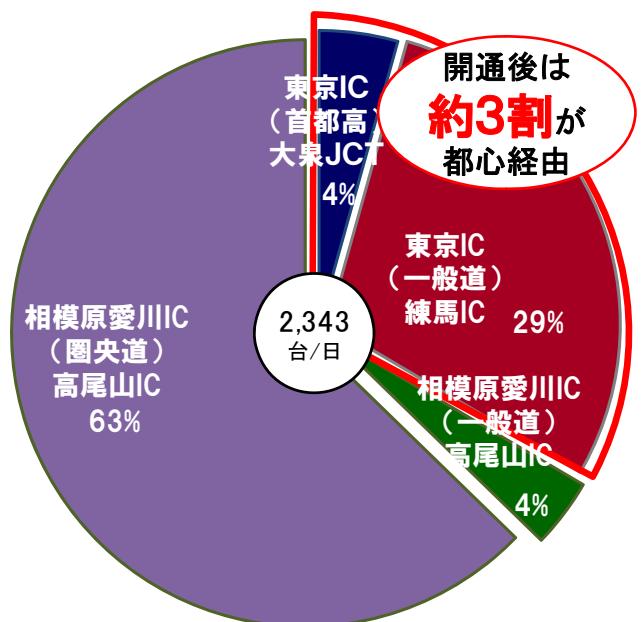
環状八号線 人見街道付近
(5月20日(火) 7時撮影)



◇東名高速－関越道間の経路選択<全車>



都心経由が
約9割から約3割に減少



※ETCログデータをもとに分析
開通前: 平成25年11月平日
開通後: 平成26年6月30日～7月4日

整備効果② 一般道から圏央道への転換(大型車)

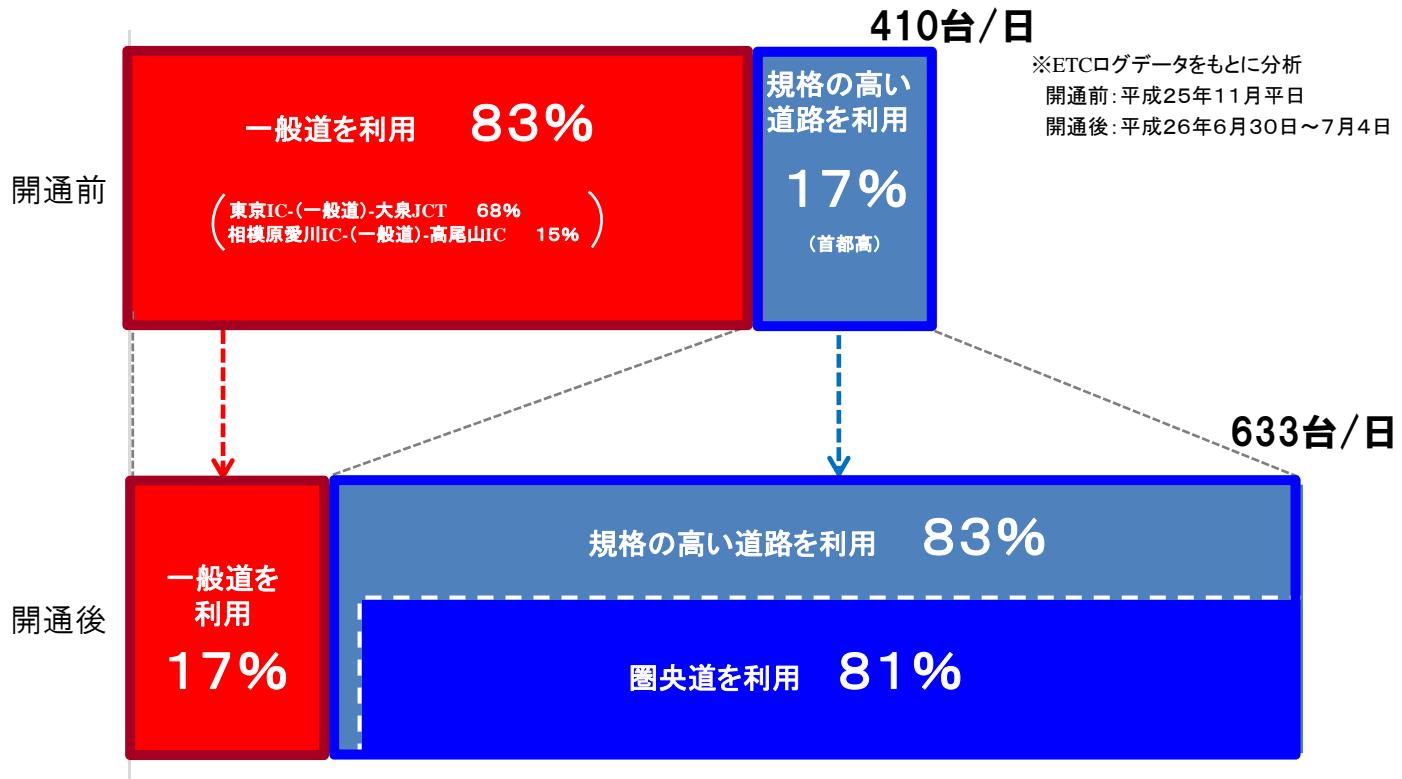
・一般道経由の大型車の広域交通が規格の高い圏央道に転換。

東名高速と関越道を乗り継ぐ広域的な移動の例

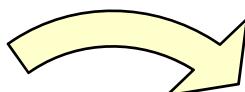
大型車の一般道利用が約8割から約2割に減少。

大型車の多くは圏央道を利用。

◇東名高速一関越道間の経路選択<大型車>



大型車は規格の高い圏央道へ



国道16号 古淵駅(相模原市)付近
(5月22日(木) 19時撮影)



圏央道 相模原IC付近
(7月2日(水) 10時撮影)

整備効果③ 品質の確保や災害時の安定運送に寄与

- ・圏央道の開通により配送ルートの変更や安定運送への期待の声。

物流企業の声

中央道方面へ

当社は、主に精密機械を相模原市内の倉庫から全国各地に直接運送している。
(物流企業)

圏央道の開通後は、八王子ICを利用するルートから振動が少なく荷物に影響の少ない圏央道相模原愛川ICを利用するルートに経路を変更するようになった。

高速料金はかかるが、所要時間も短縮され、時間とコストとの兼ね合いですが、圏央道を利用する頻度が増えていくでしょう。

開通後、運送ルートを八王子ICから相模原愛川ICへ変更

関越道、東北道方面へ

凡例

- 今回開通区間
- 高速道路
- 高速道路(事業中)
- 一般国道
- 一般国道(事業中)

凡例

- 開通前の経路
- 開通後の経路

企業（製造業）の声

（製造業）

桶川北本ICから製品を中央道経由で大阪まで運んでいるが、中央道が災害時、使用出来なくなった時に代替路線があることで安定運行が見込める。

（配送先）

中央道が使えない時、圏央道を利用して東名へ転換し、安定運送が可能に

工場 桶川北本IC

凡例

- 通常時の経路
- 災害時の経路

凡例

- 今回開通区間
- 高速道路
- 高速道路(事業中)

出典：7月22日（火）～7月25日（金）ヒアリング調査結果

整備効果④ 観光・レジャー施設の入込は好調

・観光・レジャー施設からは好調や期待の声。

■観光・レジャー施設、観光協会、旅行会社の声

旅行会社の声



圈央道の開通にあわせて、
7月から新規にバスツアー
を新設した。
ツアーの問合せも上々で、
満席で催行決定した。

■静岡県内～富岡製糸場～川越　日帰りバスツアーの新設



旅行会社の声



本厚木から関越道方面のバスツアーでは時間に余裕が出るので、川越等での見学時間が多くの確保できて助かる。

高速道路は、時間が読めるためコースを造りやすい。圏央道が開通したため、時間的に難しかった方面への新しい企画ができるようになり、バスツアーでの経路の選択肢も増えるほか、渋滞の回避がしやすくなると考えている。

観光・レジャー施設の声



圈央道開通記念として、
神奈川県・静岡県民の割引
キャンペーンを実施。

これまで少なかった両県のお客様が圏央道を利用して来場され、集客が増えているように感じる。

観光・レジャー施設の声



7月は前年と比べ、増加傾向。特に横浜ナンバー車が明らかに増加。

来場者は圏央道利用の方が多いようであり、圏央道は渋滞もなく便利という声。

観光・レジャー施設の声



圏央道開通記念として
埼玉・群馬県在住の方に割
引を実施。

これら地域の車が微増しているように感じる。

観光協会の声（東伊豆町）



相当な時間短縮効果 を実感

夏休みや秋の行楽
シーズンに合わせ、ハ王子市内
や埼玉県内で誘客キャンペーン
を企画。

【参考】圏央道 開通後の交通状況(高速道路)

- ・圏央道の開通後1ヶ月間の日交通量は、平均34,200台。
- ・これまで開通していた隣接区間の交通量は、大幅に増加。

圏央道(圏央厚木IC～相模原愛川IC間):22,400台→47,400台[112%増]

圏央道(青梅IC～入間IC間):33,200台→44,600台[34%増]

- ・関越道・中央道はやや増加。

関越道(鶴ヶ島JCT～川越IC間):88,100台→91,800台[4%増]

(鶴ヶ島IC～鶴ヶ島JCT間):94,500台→101,700台[8%増]

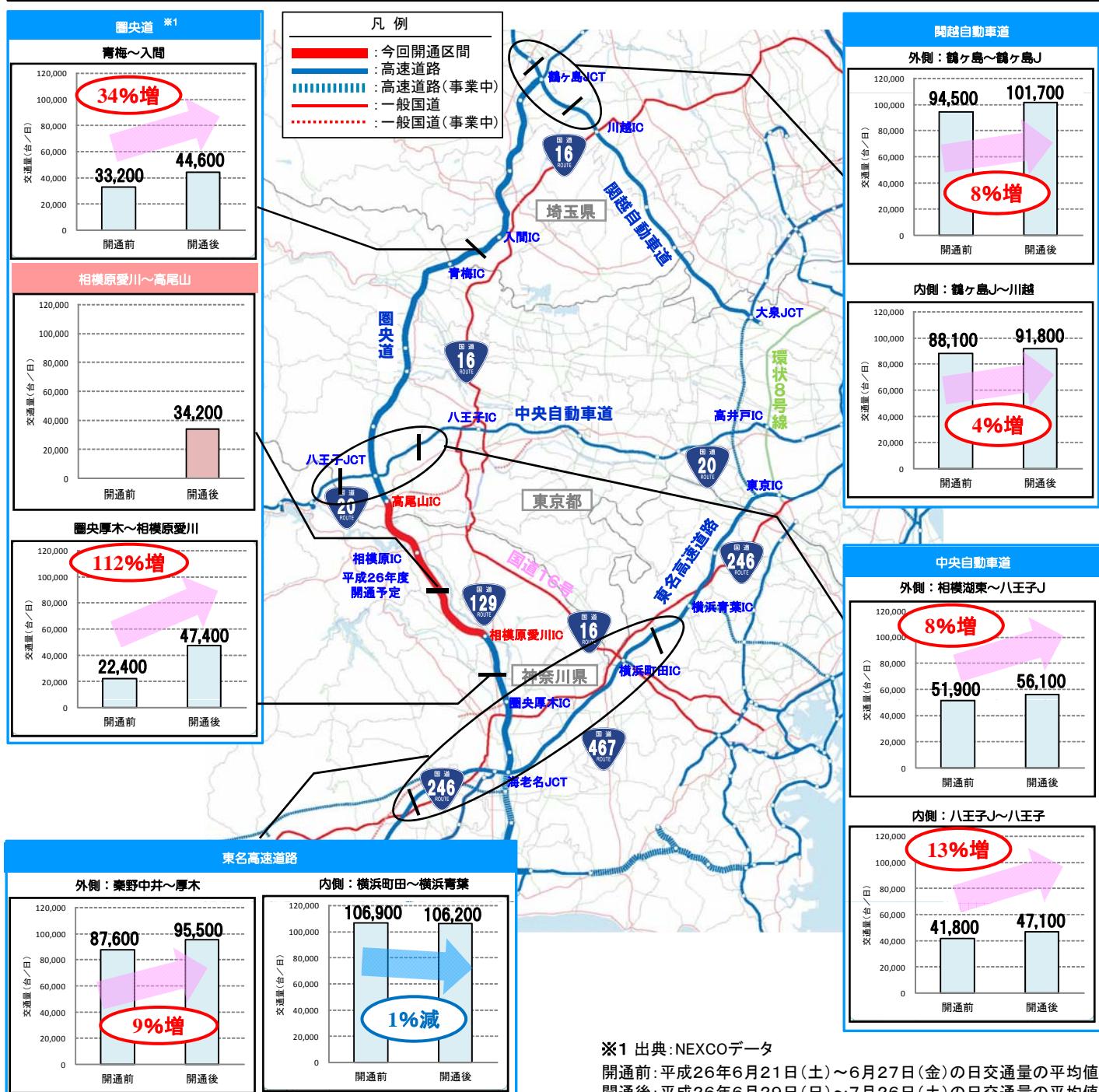
中央道(八王子JCT～八王子IC間):41,800台→47,100台[13%増]

(相模湖東IC～八王子JCT間):51,900台→56,100台[8%増]

- ・東名は圏央道内側ではほぼ変わらず、外側ではやや増加。

東名高速(横浜町田IC～横浜青葉IC間):106,900台→106,200台[1%減]

(秦野中井IC～厚木IC間):87,600台→95,500台[9%増]



【参考】圏央道 開通後の交通状況(一般道)

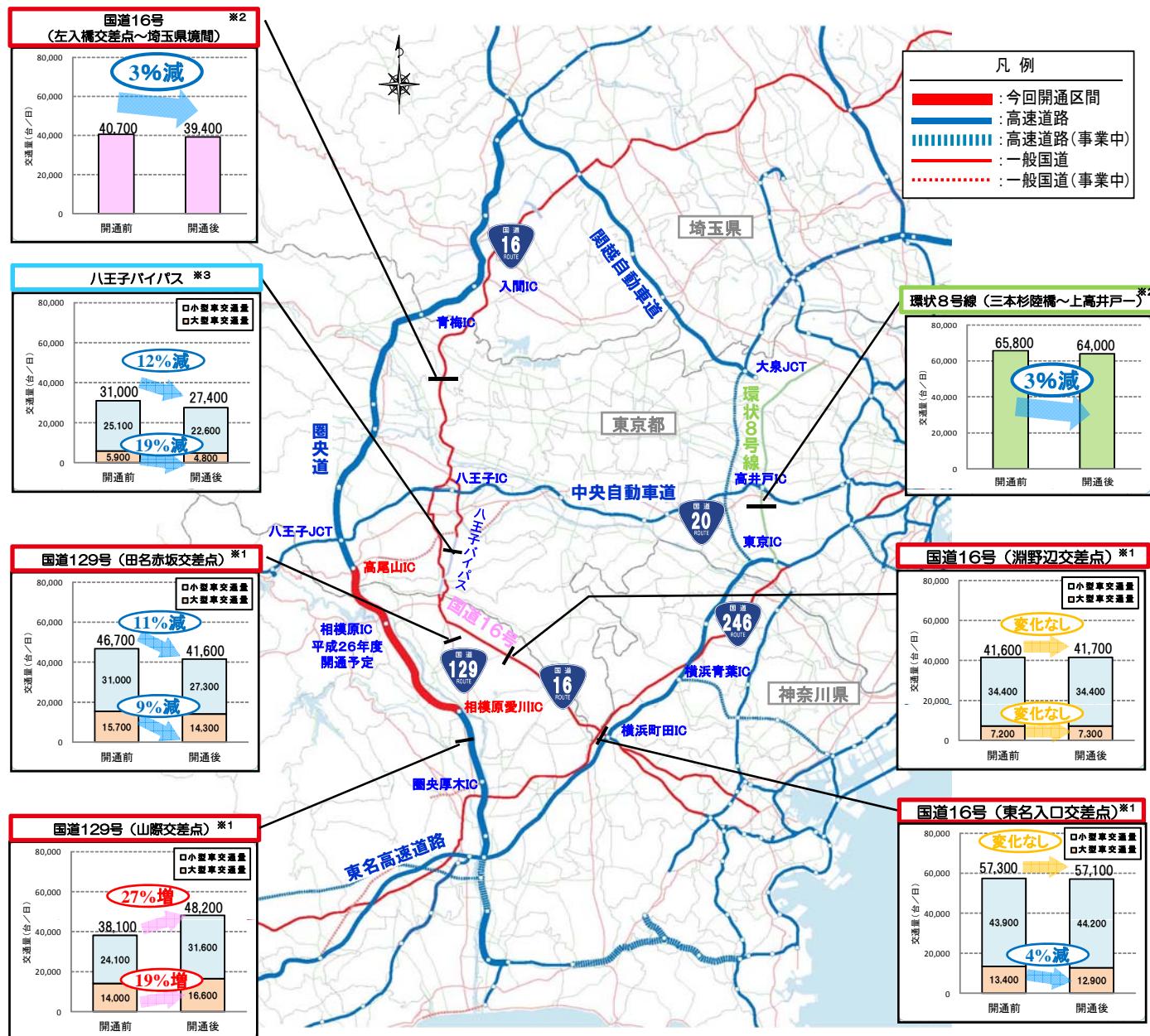
- 開通区間に並行する八王子バイパスや国道129号の交通量は減少傾向。

八王子バイパス:31,000台→27,400台 [12%減]

国道129号(田名赤坂交差点):46,700台→41,600台 [11%減]

- 相模原愛川IC周辺(国道129号山際交差点)は交通量が増加傾向。

国道129号(山際交差点):38,100台→48,200台 [27%増]



※1 出典：国土交通省データ(交通量調査)

【調査日】

開通前:平成26年6月3日(火)の日交通量

開通後:平成26年7月17日(木)の日交通量

※2 出典：警視庁トラカンデータ

開通前:平成26年6月21日(土)~6月27日(金)の日交通量の平均値

開通後:平成26年6月29日(日)~7月21日(月)の日交通量の平均値

※3 出典：NEXCOデータ

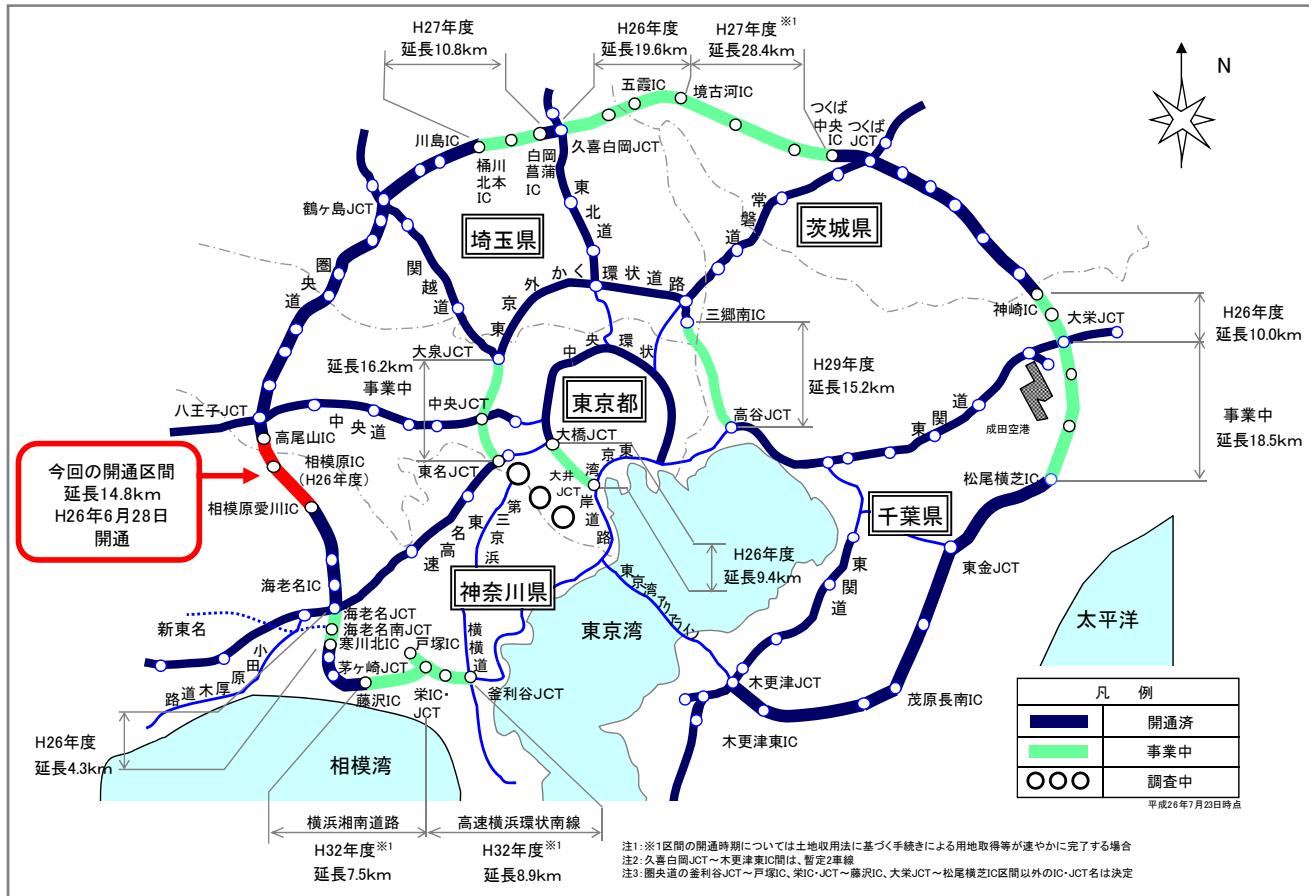
開通前:平成26年6月3日(火)の日交通量

開通後:平成26年7月17日(木)の日交通量

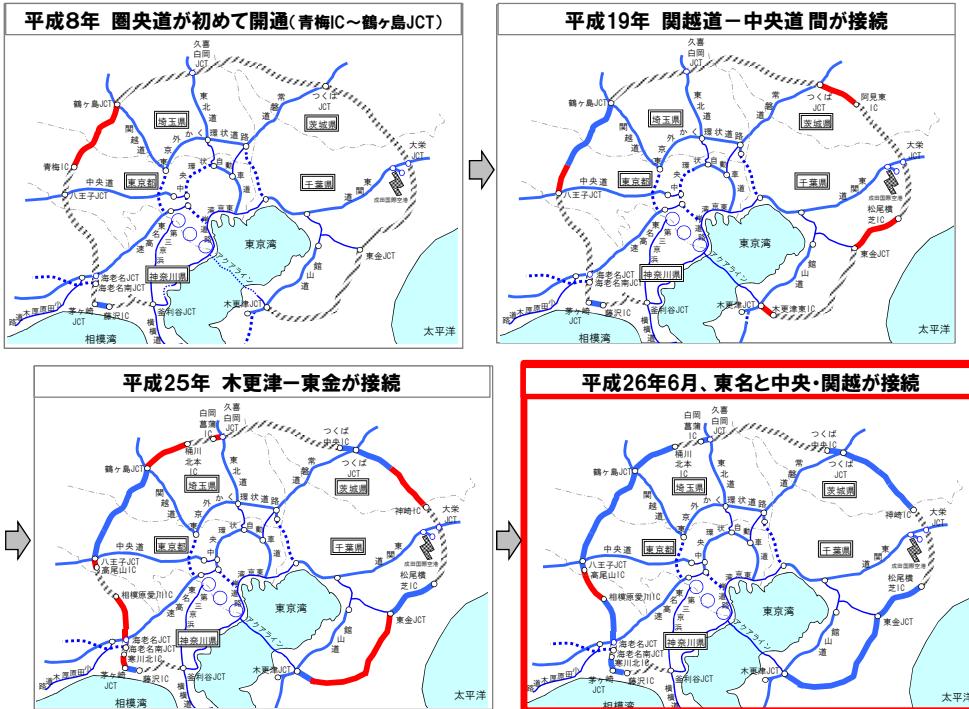
圏央道について

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）とは

首都圏3環状道路を形成し、首都圏の慢性的な渋滞の緩和・環境改善、沿線都市間の連絡強化等を目的とした都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路で、昭和60年に一部事業化後、順次開通し、今回の開通区間を含めて約7割、196kmが開通しました。



＜圏央道延伸の経緯＞



開通区間概要

- ・路線名：国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）
- ・開通区間：相模原愛川IC（厚木市上依知）～高尾山IC（八王子市南浅川町）
(※相模原ICは平成26年度開通予定)
- ・延長：14.8km
- ・又々道路：国道129号（相模原愛川IC）、国道20号（高尾山IC）
- ・開通日：平成26年6月28日（土）
- ・車線数：4車線



■今回開通区間の標準断面図

